

**令和 6 年度第 4 回岐阜市公立大学法人評価委員会
議事録 概要**

【日 時】 令和 7 年 2 月 6 日（木）10 時 00 分～11 時 00 分

【場 所】 岐阜市役所 10 階 10-2 会議室

【出席者】

（委員）加藤 義人委員長、棚瀬 友啓委員（途中出席）、長合 孝司委員、
長谷川 洋一委員（委員長代理）

＜欠席＞ 小林 宏委員

（岐阜市）田中企画部総合政策課大学改革推進室長 他

（岐阜薬科大学）原学長、杉原薬科大学事務局長、久富大学法人化推進審議監 他

1 開会

○加藤委員長

- ・冒頭に事務局から報告事項があると伺っているのでお願いします。

○田中大学改革推進室長

- ・本日、公務の都合により企画部長が欠席となり申し訳ない。当方から 1 件御報告する。
- ・前回まで 3 回にわたり議論いただいた中期目標については、先日の市議会 11 月定例会において議決を得ることができた。委員の皆様において、薬科大学の重点である教育研究に加え、地域への人材輩出など幅広い観点から公立大学としての望ましいあり方を議論いただいた結果だと思っており、心より感謝申し上げる。本日審議いただく事項も含め、今後の法人の適正な運営に向けて引き続き協力いただきたく、よろしくお願いします。

2 議事

○加藤委員長

- ・それでは議事に入る。まずは中期計画（案）について説明いただきたい。

◆岐阜市公立大学法人の中期計画（案）について
（薬科大学から資料に基づき説明）

○加藤委員長

- ・ただ今の説明のとおり、今回の中期計画（案）は、前回までに皆様から頂いた意見を丁寧に検討し、岐阜市の担当部局と薬科大学とで検討を重ねて作成されたものとのことである。資料 1～3 について意見や質問があれば伺いたい。

○長谷川委員

- ・前は欠席したため、代わりに意見を提出させていただいた。非常に細かなところまで意見を出したが、今回の計画案を拝見したところ、本当にしっかりと検討いただいております、まずは御礼申し上げます。
- ・数値指標はとても気になっていた。こうして数値指標が示されることで、到達目標が見える化され、非常にわかりやすくなったと思う。さらに、6年後に評価を行う際においても、「目標値へ到達したか」という観点があるという意味では評価が行いやすくなるのではないかな。
- ・その一方で、やはり、目標値を超えたからよいということではないと思う。今の社会において大学には重要な存在意義がある。また、どんどん人口が減っていく中で数値を維持することは、並大抵の努力では達成できないのではないかと、私も同じ大学人として思うところがある。しかし、こうした数値指標があることで、教職員の意欲向上に繋がるのではないかな。
- ・よって、私から中期計画（案）に対して特にこれ以上コメントはない。しっかりと審議いただいた結果がここに表れているのではないかなと思う。

○加藤委員長

- ・数値指標を示すことは大学運営において非常に厳しく達成は簡単ではないが、あえて掲げ、透明化を志されたことは、職員のモチベーションにも繋がるであろうという意見と、案の作成に係るご苦労に対するねぎらいの言葉をいただいた。
- ・大学側から何かご発言はあるか。

○原学長

- ・評価いただき感謝申し上げます。私どもも、初めてこうした目標をきちんと掲げていくことになるので、モチベーションアップと同時にプレッシャーもかかってくる。このバランスをうまく使い、前に進んでいくようにしたい。総合力という形で力を発揮していきたいと思っている。
- ・長谷川委員のご発言のように、目標値ありきではなく、それを達成する過程も非常に大事だと思っている。そのプロセスの中で、様々な気づきや発見があるため、そうしたことを大切にしながらやっていきたい。目標値は目標値として、それをさらに超えるように、あるいは充実した超え方ができるようにしたいと考えているので、今後とも引き続きよろしくお願ひしたい。

○加藤委員長

- ・長谷川委員の意見には私も共感するところが多い。冒頭の説明では、27 の数値指標の目標値設定の考え方について、変化の少ないものは直近の数値、変動の大きいものについては3か年平均等を出したうえで、いずれも実績を上回

る目標値の設定を基本としたとのことであった。非常に前向きな、チャレンジングな姿勢だと受け取ることができた。加えて、これまでの議論の中でも言われていたように、大学発ベンチャーの数や外部資金獲得金額は大学経営において非常に重要な指標であるが、そこは特にハードルを高く設定したということであった。この点についても大変アグレッシブな姿勢を感じた。

- それならば、特定の項目について目標値を高く設定したことをしっかり記録に残しておき、単純に数字が上回った下回ったということだけで評価するのではなく、学長が仰るように、プロセスも含めて評価するように留意する必要がある。よく記録に留めていただきたい。
- (棚瀬委員の到着を受けて、) 資料 3 に前回頂いた意見への対応が示されており、通番 19 の、薬剤師の人材輩出にへき地対応の観点を入れてほしいという箇所が棚瀬委員のご発言であったかと思う。中期計画(案)ではその点にも対応しているということを含めて薬科大学から報告があった。今は資料 1 から資料 3 についての意見を頂いているところである。
- 他にご意見はあるか。

○長合委員

- 会計士の立場から申し上げる。予算、収支計画、資金計画については作成するにあたり専門家を交えて検討されているかと思うので、私から何か申し上げることはないと思うが、資料 1 の 4 ページの外部資金獲得額について、目標値である 4 億 5000 万円に 6 年をかけると 27 億円だが、予算を見ると外部資金等収入が約 32 億円となっている。外部資金「等」となっているため、差額が「等」なのだろうと思うが、ここの整合性は大丈夫か。

○久富大学法人化推進審議監

- 予算額は決算額に比べ若干大きい傾向にあるため、予算の数字が目標値とぴったり合うものではないが、整合については考えて作成している。外部資金「等」には寄附講座などがあり、数値指標の方には含まれていないが予算には含まれているため、その点でずれが生じている。

○長合委員

- 承知した。ぱっと見て目標値よりかなり予算額が大きかったので、恐らく「等」に含まれているのではないかと思ったが質問させていただいた。

○加藤委員長

- 予算は決算より膨れるのが通例であると聞こえてしまうと誤解を招きかねないので、実績を踏まえて様々なものが「等」に含まれるという説明で理解した。

○棚瀬委員

- ・先ほどの委員長のご発言のとおり、薬剤師の偏在化は私が意見を述べたところである。今、薬剤師の偏在化が問題になっており、10年後20年後はますます悪化すると思われるため、中期計画に組み入れていただけたことに感謝する。医師も含め、偏在化が起きると医療崩壊につながってくる。
- ・薬科大学には医療薬学の方もいるかと思う。また、創薬力で日本の力を示していかなければならないということもある。行政においても、薬品行政だけではなく医療行政において力強い人材を育てていただくことも重要である。また、医師にも「直美（ちよくび）※」という言葉が出るような時代になってきたので、医療人としての精神や奉仕の精神といったところも、大学の6年間で培っていただけるとよいと思う。こうしたことも中期計画（案）に入っており、ありがたく思う。

※初期研修を終えた後、保険診療の分野を経ず、すぐに美容医療などの自由診療に進むこと。

○加藤委員長

- ・ご指摘のように、諸情勢が非常に厳しいものであるということは、岐阜市も薬科大学も十分ご認識のことと思う。それを踏まえて、へき地対応を含め、中期計画への記載に配慮いただいているように思う。
- ・特に修正の必要を指摘する意見はなかったので、中期計画について提示された案を適当と認めることとしたいが、よろしいか。（委員了承）
それでは、当委員会としては提示された案を適当と認めることとする。

◆岐阜市公立大学法人役員報酬等の支給基準（案）について
（薬科大学から資料に基づき説明）

○加藤委員長

- ・ただ今説明のあった資料4についてご意見があれば伺いたい。
- ・私から一つ伺うが、支給基準の設定にあたり、岐阜市や薬科大学のこれまでの通例や、全国の地方独立行政法人の標準的な基準に照らして、今回特別な設定をした事項はあるか。

○久富大学法人化推進審議監

- ・支給基準を定めるにあたり、他大学等の状況の調査も行っており、理事長の給料月額などについて他大学と比べて大きな増減はない。手当についても標準的な額になっている。
- ・非常勤役員の報酬についても、月額3万円は他大学でも最も標準的な額であ

る。大学の規模等によっても差はあると思うが、本学の規模や状況に鑑みて、標準的な額で案を作成した。

- ・支給基準について特に大きな特徴はない。

○加藤委員長

- ・承知した。

○長合委員

- ・副理事長及び理事は「その職責に応じ理事長が別に定める額」となっており、特に金額が明示されていないが、他大学もそうなのか。

○久富大学法人化推進審議監

- ・他大学では金額を明確に定めているところもある。

○田中大学改革推進室長

- ・他大学では、実態として法人職員が副理事長や理事を兼ねているため、その職責に応じて定める額という規定はあるが、実際には職員給与が支給されておりこの規定は適用されていないという例があり、それを参考にこのような定め方になっている。

○長合委員

- ・そうすると、令和 7 年度の副理事長及び理事は法人職員が兼ねることか。

○田中大学改革推進室長

- ・人事事項であるため現時点で確実なことは申し上げられないが、薬科大学の規模に鑑みてそのような可能性もある。

○加藤委員長

- ・今のやり取りに関連して確認したいが、法人職員が副理事長や理事を兼ねたときのインセンティブは機能しているのか。

○田中大学改革推進室長

- ・役員報酬の部分でしっかりと定め、インセンティブを付けることが望ましいという考え方が基本であるとは理解するが、薬科大学は小規模な大学であり、これまで市の組織としてやってきたところから法人へ移行する最初期であるため、仮に法人職員が役員を兼ねるときは、役職や業績などがふさわしい地位のものが役員の職責を担うことにより、役員としての働きも評価するという方

針でまずはスタートするという考え方で、今回の案の形となっている。

○加藤委員長

- ・今の回答も含めて、長合委員いかがか。

○長合委員

- ・とりあえず承知した。

○加藤委員長

- ・他にご意見はあるか。(意見なし)

それでは、役員報酬等の支給基準(案)について、特に修正を求める意見はなかったと思うので、提示された案を適当と認めることとしたいが、よろしいか。

(委員了承)

- ・それでは、当委員会としては提示された案を適当と認めることとする。
- ・本日の議事は以上。

3 閉会

○加藤委員長

- ・今回が法人化前の最後の評価委員会になるので、最後に原学長から一言ご挨拶いただけると幸い。

○原学長

- ・評価委員会の委員の皆様におかれては、大変お忙しい中、また要職に就かれている中、4回にわたり法人の中期目標及び中期計画等について審議いただき、大変貴重な意見を賜ったことにまずもって心より御礼申し上げます。
- ・もう2か月を切っているが、本年4月、いよいよ岐阜市公立大学法人岐阜薬科大学としてスタートする予定。皆様のご意見等を踏まえて新たに法人ができるものである。引き続き、教育、研究、社会貢献の大きな三つの柱をしっかりと堅持しつつ、着実なものにしていくことが、岐阜市の公立大学としての役割を果たすことだと思っている。
- ・評価委員会はこの4回で終わりというわけではなく、今後、中期計画を基に業務実績評価を行っていただくことになる。この評価は、法人運営の継続的な改善や質的向上を図るものであり、大変重要な役割をもっているため、来年度以降も引き続きご指導のほどよろしくお願いしたい。

○加藤委員長

- ・先行して検討した中期目標を踏まえながら中期計画の議論を積み上げるのは非常にご苦労が多かったことと思うが、ここまで取りまとめられ、中には大変

アグレッシブな姿勢も織り込まれていることが確認できた。

- ・原学長のご挨拶のとおり、2 か月後の4月から、地方独立行政法人として改めて岐阜薬科大学が順調なスタートを切られることを祈念して議論を閉じる。

○田中大学改革推進室長

- ・本日も充実したご審議をいただき感謝申し上げます。事務的なご連絡だが、予備日としていた今月18日は会議を開催しないこととするのでご了承いただきたい。
- ・加藤委員長のご発言のとおり、今回が薬科大学法人化前の最後の委員会になるので、来年度の委員会運営について簡単にご説明する。4月に岐阜市公立大学法人が設立されると、これまでご議論いただいていた中期目標、中期計画に基づいて、法人が6年間にわたり進捗管理をしながら業務を行うこととなる。評価委員会におかれては、中期目標期間の4年目終了時と6年目終了時の2回、業務実績評価をお願いする予定である。この評価に向けて、来年度は本委員会で評価の実施方法に関する基本方針をあらかじめ定めることを議題として、3回程度の開催を予定している。また、法人の運営状況を把握いただくための現状報告や、計画改定等の審議事項が新たに発生した場合は、開催することがある。
- ・次回は本年7月頃を予定しているので、改めてご連絡する。